

令和元年度・第3回審議会グループワークのまとめ

審議は、委員が「八和田小・小川小・東小川小校区」と「竹沢小・大河小・みどりが丘小校区」の二つのグループに分かれて進めた。

1 「学校数」について

八和田小・小川小・東小川小校区

- 小学校2校案ではなくて、1校に統合してしまう案もあるだろう。

竹沢小・大河小・みどりが丘小校区

- 中学校1校、小学校2校は妥当。
- 中学校1校は理解できる（位置については、疑問）
- 学校数を減らすことが目的ではない。学校（教育環境）の質を下げないこと、クラス数を増やすことが前提。

2 「学校の位置」について

八和田小・小川小・東小川小校区

- 遠距離通学が生じる。
 - ・ 東小川小と小川小は近くてよいが、八和田は距離的に遠くなる点が問題（3と重複掲載）
 - ・ 自分自身、高見の出身だが、遠くて小川小へは絶対に通えないと感じる。（3と重複掲載）
 - ・ 八和田小校区で、現実的に小川小へ徒歩で通えない子はいる。何らかの通学方法を考える必要がある（3と重複掲載）
- 校区の境に住む児童生徒への対応について
 - ・ 西中と小川小校区の関連では、西中のほうが近い小川小校区の人と、小川小のほうが近い西中校区の人がいる。
 - ・ どちらに行ってもよい、という選択の余地も考えられるのではないか。
 - ・ 行政区の役割の面もあり、一概には決められず難しい面もあるだろう。
 - ・ 子ども会も分けないといけなくなると、面倒だ。
 - ・ 各家庭がどちらを選ぶか、という考えもある。

竹沢小・大河小・みどりが丘小校区

- 位置については、案でやむを得ない。
- 小学校の位置は西中の位置が一番良い。
 - ・ 西中を小学校に変えるのは夏休み期間で可能ではないか（8と重複掲載）

- ・増築にしろ、プレハブにしろ、空き地がある西中が楽。
- 小学校を西中の位置にするのは一考して欲しい。
 - ・竹沢小を学校として利用して欲しい（竹沢小は避難場所として使えないので）
（6と重複掲載）
 - ・大河地区より竹沢地区の方がホンダ効果により人口・児童数が増える可能性があるのではないか。
 - ・大河小にしても、竹沢小にしても通学が大変なので、中間の西中になっているのではないか。
- 小川高校の隣に新設するのはどうか。
- 西中を中学校にすればよいのではないか。
 - ・東小川の方から西中へ通うのは大変。

3 「通学距離と通学方法」について

八和田小・小川小・東小川小校区

- 遠距離通学が生じることについて
 - ・東小川小と小川小は近くてよいが、八和田は距離的に遠くなる点が問題
（2と重複掲載）
 - ・自分自身、高見の出身だが、遠くて小川小へは絶対に通えないと感じる。
（2と重複掲載）
 - ・現状、高見などから小川小へ通わせたい、という保護者の声はない。
 - ・八和田小校区で、現実的に小川小へ徒歩で通えない子はいる。何らかの通学方法を考える必要がある（2と重複掲載）
 - ・小川小までどう通うのか、バスが出るのか、保護者の送迎が必要となるのか。また安全面の確保はどうなるのか。保護者としては距離が遠くなることにより生じる問題が一番心配ごと（6と重複掲載）
- 遠距離通学の対策の必要性の意見
 - ・八和田小区の中でも、特に西古里等の遠方地区は、バスでの送迎等何かしらの手立てが必要だろう。
 - ・仕事をしている親が多いので、送迎ができない場合もある。バスが必要。
（6と重複掲載）
- スクールバス等を用意するにあたっての検討課題
 - ・八和田小区の子どもは、どの範囲まで徒歩が可能で、どのあたりからバス等が必要となるか。
 - ・バスが出るとしても、バス通学の対象となるエリアや境界をどう決めるのかという問題もある。学年による（子どもの体力的な）違いもある。
 - ・小川小の子は、下里分校あたりからは徒歩で通学してきており、各家庭から分校までは保護者の送迎や、自転車で集まってから歩いてきているようだ。徒歩の範囲を

見定め、それを越える部分はタクシーやバスなどの手配が必要だろう。

- ・東秩父では、統合し、子どもの半数はスクールバス利用になっている。時間を合わせるのが大変という課題はある。
- ・行政側に対して感じる印象として、スクールバスの使用が想定されていないような雰囲気が出て、懸念している。
- ・スクールバスの使用の有無は、審議の結果により検討される課題であり、結果に伴って、町も対応に配慮してくれるのではないかと思う。

東秩父では、子どもに定期券を持たせ、バスを利用しているエリアもある。

○ 安全対策について

- ・通学路の大きな箇所としては、高谷の交差点があるが、現状はウルトラ防犯パトロール隊等の見守りの方が10人ほどついてくれていて横断している。昨今は、ホンダの関係で新しい交通の流れができ、後伊地区など該当の地区の保護者からは心配の声が出ている。更なる安全配慮策を打ち出さないと、厳しいのでは。
- ・小川小～八和田小間の交通量がわかる地図が必要ではないか。大きな地図に記入していく。
- ・安全な道路整備も必要ではないか。
- ・西古里から八和田小へは、現状3人通っており、歩道は整備された。

○ 交通ルールについて

- ・自転車通学の中学生で交通ルールを守っていない子も見受けられ、危険。
- ・自転車や歩道の利用（通学路）のルール（の理解）があやふやなところもある。例えば、花和楽の湯から角山・みどりが丘に抜ける幅広の歩道など。（自転車も通ってよい歩道なのだろうか等）

○ 保護者への説明と理解を得ることについて

- ・基本的に子どもの安全は保護者が考えること。保護者を納得させる説明ができるかどうか問題。

竹沢小・大河小・みどりが丘小校区

○ 通う目安について

- ・4 km、1時間ではないか
- ・3 km
- ・小学生は、3 km か2 km

○ 通学距離について

- ・（みどりが丘から西中までは）徒歩は無理ではないか。

○ 通学路の高低差について

- ・高低差があるのは、通うのに大変

○ 通学方法について

- ・小学校は自転車通学しない方がよい。

- ・通学方手段の確保は、町でしっかり行って欲しい。
- ・マイクロバスが必要
- ・町内に循環バスを回すのはどうか。
- ・(小学校では) 路線バスの西中までの延長・経路変更を行政が依頼
- ・(中学校では) 坂を考えるとバスを考えるべき。

4 「心のケア」について

八和田小・小川小・東小川小校区

- 学校が変わることの不安と対応について
 - ・小学校に入学するとき、喜びではなく、外部から入れさせてもらうような空気になってしまうと違和感がある。中学校に入学するときとは違う。

交流事業

- ・八和田小から小川小に行くとなると、八和田の子がよそ者扱いされないか心配。再編に向けては、段階的な移行期間として、小川小の子と八和田小の子が交流できる期間を設けるとよいのではないか。
- ・他の地域では、行事を交流しているところもあるようだ。川島町の例として宿泊を一緒にしていた。

クラス編成

- ・クラス編成にあたって、地区のバランスに配慮する必要がある。中学校の学級編成では、八和田の子はまとまって入れてもらっている。
- ・同意。地区のグループが離れないような配慮は必要だろう。1~2年で解決するという、時間の問題の面もあると思う。

保護者の意識

- ・地区のくくりに対する保護者の意識も変えなければ、根本的な解決にはならない。

5 「学校の設備・予算」について

竹浪小・大河小・みどりか丘小校区

- 費用対効果の観点から、(段階的な再編ではなく) 一度に実施がよい。
- 特別支援学級は、1名でも1クラスなので、12+3くらいの教室数が必要。
- プレハブにしてもある程度のものは、作らないといけない。
- 増築するのは、空き地がある西中が楽。

6 「地域・保護者」について

八和田小・小川小・東小川小校区

- 通学に係る保護者の負担について

- ・小川小までどう通うのか、バスが出るのか、保護者の送迎が必要となるのか、また、安全面の確保はどうなるか。保護者としては、距離が遠くなることにより生じる問題が一番の心配ごと（3と重複掲載）
- ・仕事をしている親が多いので、送迎ができない場合もある。バスが必要。（3と重複掲載）
- 避難所の機能について
 - ・八和田小が廃校になったら、避難場所ではなくなってしまうのか、心配。
 - ・廃校後、学校の水道など、ライフラインが止められてしまうと不安。緊急時の使用ができず、避難場所としてなくなってしまうと不安だ。
- 学校開放施設としての機能について
 - ・廃校後、八和田小の体育館は、地域で使えるようにできるか。

竹沢小・大河小・みどりが丘小校区

- 避難所の機能について
 - ・竹沢小を学校として利用して欲しい（竹沢小は避難場所として使えないので）（2と重複掲載）

7 「再編計画の期間」について

竹沢小・大河小・みどりが丘小校区

- 大河小は、中学校になって初めてクラス替えが行われる。やはり（計画期間を）縮小して小学校段階でもクラス替えができるとよい。

8 「その他」について

八和田小・小川小・東小川小校区

- 地区の文化の違いについて
 - ・小川小区と八和田小区で、地域の文化的な違いはあるか。
 - ・同じ町内なので、（地域の文化的な違いは）そんなにないだろう。
- 教育委員会でいくら理想を掲げて議論しても、周辺の環境（道路整備やバスの運行状況など）が伴わないのではないかと。私自身は、持論として、再編（学校の統合）を急ぐ必要はないと思っている。
- 統廃合ではなく、分校にする案もあるのではないかと。廃校にしても跡地の使い道がない。10年後は、学習方法の面の発展（インターネットや媒体の進化）が見込まれる。
 - ・学習面の発展はあるだろうが、人間関係のコミュニケーションの部分は、やはり、母体となる学校環境は大きいほうがより良いだろう。
 - ・統廃合しないことで良いこともあるのでは。既存の学校はそのままに、本校・分校

の形にして、分校の子は週に1~2日だけ本校に行き、あとは分校で、という形。

- ・昨今、環境の変化についていけない、発達障害の子が増えている。そういった子たちへの配慮が必要。その子たちにとっては、環境の変化は負担となるため、毎日学校へ行くという安定した環境が必要。環境の変化がないほうが、落ち着いて学習できる。

○ 学童との関係はどうか。

- ・現状、他の小学校区の子が八和田学童に通っているケースがある。必ずしも校区に限らない。

- ・学童クラブは、学校でも気が付かないことに気付いてくれたりして、メリットを感じる。校区に限らず選べるのは、魅力だ。

○ 再編に関して、他市町村の先進事例を聞くべき。そういった事例の情報・資料の提示がほしい。我々がこうして議論をしても、視野が内向きであり、素人が言うだけ、になってしまう。外に目を向ける必要がある。同等規模自治体の先進事例を参考にし、話が脱線しないように議論をしたい。

竹沢小・大河小・みどりが丘小校区

○ (10年後ではなく) 20年後、30年後を考えた提案なのではないか。

○ 西中を小学校に変えるのは夏休み期間で可能ではないが (2と重複掲載)

○ (竹沢小の児童数が少ないので) 初めに竹沢小と大河小、次にみどりが丘小と一緒にする方法はどうかとの意見がある。

○ 中高一貫教育を考えてもよいのでは。高校の定員も減らないのではないか。